

被災地 朝来・宮城

■カブトムシ幼虫贈る



カブトムシの幼虫の発送作業をする女性部員たち＝朝来市商工会提供

朝来市商工会女性部(12人)が、東日本大震災の被災地、宮城県山元町の小学生たちに、カブトムシの幼虫約300匹をプレゼントした。「幼虫を育てることを楽しんでもらえれば」と期待している。

両市町は大規模災害時応援協定を結んでいて、市からの職員派遣や、義援金を贈るなどの交流が続いている。今回は女性部の部員から「お金を送るだけではない支援を」との声があがり、独自の支援策としては初めて、カブトムシの幼虫プレゼントを企画した。

畜産やカブトムシ、ペットの飼育資材販売などを手がけている「コバヤシ産業」(同市和田山町竹田)の小林博会長の協力で幼虫を用意。小林会長はカブトムシを飼育し、地元や四国などの子どもたちに幼虫を贈る活動が続けている。

搬出作業には12人の部員たちが集まり、体長10センチほどに育った幼虫を3匹ずつケースに入れて発送。山元町では教委を通じて全4小学校に幼虫を配布、7月ごろには成虫になる見込みで、クラスで協力して育てるといふ。